

■ 資料

生活行為向上マネジメント

Management Tool for Daily Life Performance

西井 正樹¹⁾

Masaki Nishii¹⁾

1) 関西福祉科学大学保健医療学部リハビリテーション学科
〒582-0026

大阪府柏原市旭ヶ丘3丁目11番1号

電話：072-978-0088 FAX：072-978-0377 E-Mail：mnishii@tamateyama.ac.jp

1) Department of Rehabilitation Sciences, Faculty of Allied Health Sciences, Kansai University of Welfare Sciences

3-11-1 Asahigaoka, Kashiwara-shi, Osaka, 582-0026, Japan. TEL +81-72-978-0088

保健医療学雑誌 7 (1): 17-21, 2016. 受付日 2016年3月14日 受理日 2016年3月24日

JAHS 7 (1): 17-21, 2016. Submitted Mar. 14, 2016. Accepted Mar. 24, 2016.

ABSTRACT:

With the aging of the population in Japan continuing to progress rapidly, there is a need for the enhancement of welfare services for senior citizens. A system for improved management of activities of daily life, the Management Tool for Daily Life Performance (MTDLP), has been developed by the Japanese Association of Occupational Therapists that is easy for citizens to understand, and can be used to model ideal forms of occupational therapy that can make a contribution to regional integrated care systems.

Key words: Management Tool for Daily Life Performance (MTDLP), Daily Life Disability

要旨:

わが国では、急速な高齢化の進展に伴い、高齢者福祉サービスの充実が求められている。日本作業療法士協会は、国民にわかりやすく、地域包括ケアシステムに貢献できる作業療法の形を示すために生活行為向上マネジメント (Management Tool for Daily Life Performance : MTDLP) を開発した。

キーワード: 生活行為向上マネジメント, 生活障害

はじめに

近年の我が国の高齢化は、世界に類を見ない速度で進行している。日本の総人口に占める 65 歳以上人口の割合は 3186 万人となり、人口全体の 25.0%である (2015 年 9 月現在)。介護保険導入時には 2,200 万人 (17.3%) で、当時と比べ現在は、約 1.45 倍と急速な勢いで増加している¹⁾。このように高齢者人口は増加の一方だが、2000 年より介護保険制度が導入され、在宅介護サービスの供給が充実したことにより、在宅サービスの利用も著しく増加している。しかし、介護サービスにおいて、病院などの医療保険から施設・在宅への介護保険へと移行する際、必ずしもクライアントのニーズをつなぐサービスになっておらず、その場でのサービス対応になっている。特に在宅においては、クライアントの機能を向上するだけの訓練だけでなく、クライアントの思いを実現するための IADL に着目した自立支援型マネジメントが必要になってきている。そこで、人の生活へのアプローチを基盤とする作業療法士が多職種にもわかりやすい自立支援型医療・介護を具体化する一つのツールとして開発した生活行為向上マネジメント (Management Tool for Daily Life Performance : 以下 MTDLP) を紹介する。

生活行為向上マネジメントとは

生活行為向上マネジメントは、平成 20 年度以降、日本作業療法士協会が取り組んできた厚生労働省老人保健健康増進等事業をもとに開発が始まった。以後平成 25 年まで 7 件の同研究事業を経て開発された。人の生活は、誰もが 365 日 24 時間平等に営まれるものであるが、人によって構成されている要素に違いがある。個人の生活を成り立たせている生活行為は、病気や老化による機能低下、生活上の悪習慣や対人関係の在り方、社会の価値観、環境、本人の性格などから影響を受ける。MTDLP とは、セルフケアを維持していくための日常生活活動 (ADL) の他、手段的日常生活活動 (IADL)、仕事や趣味、余暇活動などクライアントが本来持っている能力を引き出し、在宅生活で実際にその能力を活かすこと、もしくは活かされるよう、身体的精神的に支援を行い、生活

行為向上を図るために必要な要素を分析し、改善のための支援計画を立て、それを実行するためのマネジメントツールのことである。MTDLP では、クライアントが大切にし、本人にとって意味のある生活行為に焦点をあてる。この MTDLP を活用することによって、臨床経験 1 年目の作業療法士が、臨床経験 10 年目の作業療法士の思考過程を理解し、クライアントに適切な作業療法を提供できることを期待している。

MTDLP で使用するシートは、6 種類存在する。

- ① 生活行為聞き取りシート
- ② 興味・関心チェックシート
- ③ 生活行為向上マネジメントシート
- ④ 生活行為アセスメントシート
- ⑤ 生活行為向上プランシート
- ⑥ 生活行為申し送りシート

その内、①生活行為聞き取りシート、④生活行為アセスメントシート、⑤生活行為向上プラン演習シートは、③生活行為向上マネジメントシート (表) に集約されている。

生活行為向上マネジメントの進め方 (図)

MTDLP は、クライアントの困っている問題や改善したい問題を聞き取ることから始まる。聞き取った内容 (主訴) はそのまま「生活行為聞き取りシート」に記載する。同時に家族からクライアントがうまくできるようになってほしい生活行為の聞き取りを行う。このシートには、クライアントの動機づけを図るために、「実行度」と「満足度」の自己評価の欄が設定されていて、1~10 点で記入する。もし、ここでクライアントが困っている問題や改善したい問題が思い浮かばない場合は、「興味・関心チェックシート」を利用する。

次に「生活行為アセスメントシート」では、クライアントの客観的評価から、クライアントがしたいと思っている生活行為について妨げる要因と現状能力 (強み) を ICF コードと共に心身機能・活動と参加・環境因子に分けて記載する。予後予測には、本人のしたい生活行為が、どのようにすればうまくできるようになるのかについての可能性を記載する。これらの要因からクライアントと共有した生活目標を設定する。アセスメン

トが終了すると、「生活行為向上プランシート」を使用する。

「生活行為向上プランシート」は、クライアントの具体的な支援計画を立案するためのシートである。支援計画を作成するにあたって、合意した目標に対する工程分析を行う。工程分析は、「企画準備力 (Plan)」「実行力 (Do)」「検証完了力 (See)」の項目で分析する。次に支援計画を達成するためのプログラムを立案するが、プログラム実行にあたっては、作業療法士が行うプログラムだけでなく、本人・家族・支援者（理学療法士・言語聴覚士・看護師・介護士・ケアマネージャー等）が「いつ」「どこで」「なに」を行うのかを踏まえ立案する必要がある。これがマネジメントツールである所以と言える。実行期間は3か月ぐらいが望ましいとされるが、病院・施設の状況を踏まえて実行する。プログラム実施期間後に、はじめに合意した目標に対する「実行度」と「満足度」を記載し、退院・転院先には、生活行為申し送り表を使用して、次につなげていく。この生活行為申し送り表は、これまでの支援内容、クライアントの希望する生活行為、現在のADL・IADLの現状、アセスメントのまとめと解決すべき課題や継続すべき課題などの情報が含まれている。また、本人や家族やケアの提供者に対して、在宅での過ごし方を指導する退院時リハビリテーション指導の書式として活用や、診療情報提供書に添付する作業療法実施記録としても活用することができる。

おわりに

今後ますます高齢化が進む中、国は地域ケア会議等、高齢者個人に焦点を当てた支援を充実させていく方針である。個人の生活に焦点をあてる作業療法士が行う仕事を明確化する1つとして「生活行為向上マネジメント」を活用し、認知されていくことが大切であろう。

謝辞

本論文作成にあたり使用した表は文献2に掲載されたもので、(社)日本作業療法士協会より使用の許可を受けた。ここに感謝いたします。

文献

- 1) 内閣府：平成 27 年度版 高齢社会白書 pp2-8
- 2) (社)日本作業療法士協会：作業療法マニュアル 57 生活行為向上マネジメント™ 2014

Table. Management Tool for Daily Life Performance Sheet

生活行為向上マネジメントシート

記入日： 年 月 日

生活行為 アセス メント	生活行為の目標		本人			
			キーパーソン			
	アセスメント項目	心身機能・構造の分析 (精神機能,感覚,神経筋骨格,運動)	活動と参加の分析 (移動能力,セルフケア能力)	環境因子の分析 (用具,環境変化,支援と関係)		
	生活行為を妨げている要因 (ICF コード)					
	現状能力 (強み) (ICF コード)					
	予後予測 (いつまでに,どこまで達成できるか)					
	合意した目標 (具体的な生活行為)					
	自己評価*	初期	実行度 /10	満足度 /10	最終	実行度 /10

*自己評価は本人の実行度（頻度などの量的評価）と満足度（質的な評価）を1から10の数字で答えてもらう

生活行為向上 プラン	実施・支援内容		基本的プログラム	応用的プログラム	社会適応プログラム	
	いつ・どこで・誰が・何を実施・支援	本人	計画			
			結果			
	家族	計画				
		結果				
	支援者 (職種明記)	計画				
		結果				
	実施・支援期間		年 月 日 ~ 年 月 日			
	達成		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 変更達成 <input type="checkbox"/> 未達成（理由： _____） <input type="checkbox"/> 中止			

本シートの著作権（著作人格権，著作財産権）は一般社団法人日本作業療法士協会に帰属しており，本シートの全部又は一部の無断使用，複写・複製，転載，記録媒体への入力，内容の変更等は著作権法上の例外を除いて禁じます。

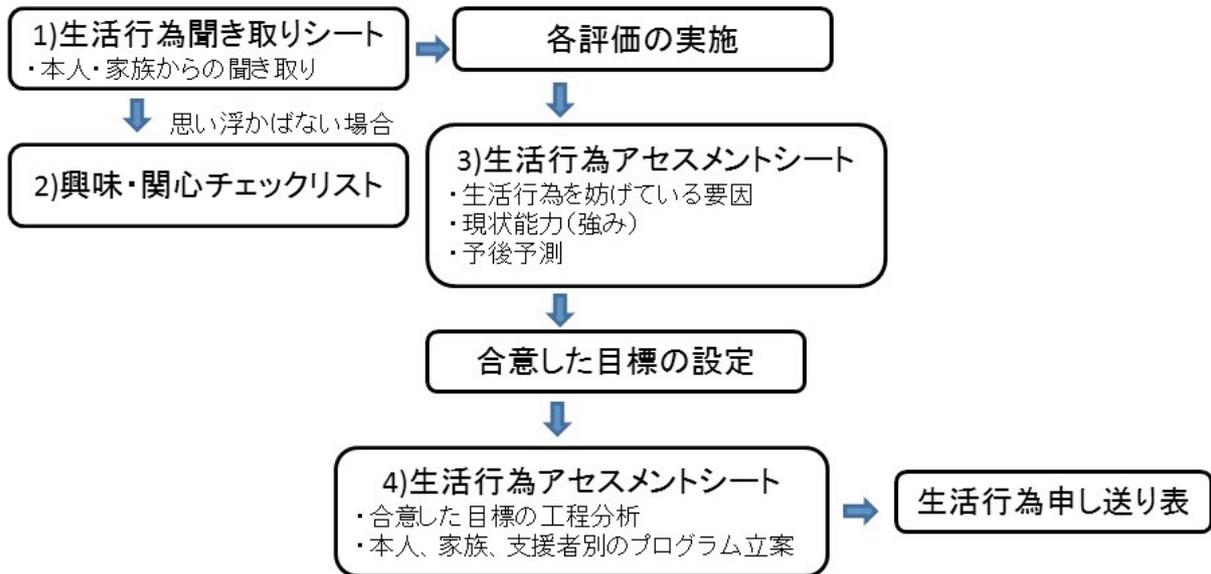


Figure. Process for Management Tool for Daily Life Performance